



唐津焼11人展
― 在るが様に ―

令和6年2月23日(金)～29日(木)

平成二十二年三月に第一回「二〇一〇 唐津焼のいま」12人の陶芸家による技の競演」と題して、柿傳ギャラリーで唐津焼展を開催してから早や十四年が経ちます。中堅と若手に声を掛けてはじまったグループ展でしたが、その間変わらずお世話をして下さった柿傳ギャラリー店主の安田尚史様、唐津焼を愛し展覧会に来場下さいましたフアンの皆様、そして私の趣旨に毎回賛同してご協力下さった作家の皆様、先ずは心より感謝申し上げます。皆様の大きな支えがあつて、第八回「唐津焼11人展」在るが様に「」を迎えることができました。二十七日に開催される茶会は、昨年五月に亡くなった櫛の谷窯の吉野敬子さんの追善茶会です。ご主人の太原和司様が席主を務めますので、何卒ご参加下さいますようお願い申し上げます。サブタイトルは「在るが様に」としました。長年、唐津焼を見続けていまいすと、各々の作家の「唐津への想い」を表現しているように思われます。すなわち、「唐津はこう在るべき」という決まりは何もないということです。自由であることが唐津の魅力です。今展は、作家の「唐津への想い」を「在るが様に」表現した展覧会です。十一人の唐津焼作家の魅力溢れる茶陶と酒器をご堪能下さい。

中里太亀さんの《絵唐津水指》は、丸みのある端正な姿の水指で、その胴の表面には素朴な草花文を、裏面には輪違文が鉄絵具で描かれています。茶陶の中では、特に懷石の器に定評があり、多くのフアンを持っています。作家の人柄が滲み出た、使つて心地よい器です。

十四代 中里太郎右衛門さんの《唐津手びねりぐい呑》は、赤い土に透明釉が薄つすらと掛かり、やわらかな仕上がりになつています。口部には山道を作り、その周りや高台の内外には梅花皮が見え、深い味わいを醸し出しています。酒器を愛する当代ならではの傑作です。

藤ノ木土平さんの《弁財天一額》は、いまシリーズで制作している「七福神」の一員で、大黒、恵比寿と並び七福神の基になつたと言われています。音楽神、福德神、学芸神の性格に加え、戦勝神の性格をも持ちますが、広くは福德神、財宝神として信仰されています。

三藤るいさんの《青斑唐津茶碗》は、青唐津と斑唐津の技法から考案したオリジナル作品です。昨年「日本陶磁協会現代陶芸奨励賞九州・沖縄展」審査委員特別賞を受賞。その理由として、「高台が本当によくできている」とありましたが、高台が誉められることは減多にないことです。

岡本作礼さんの《黒織部唐津円相茶碗 銘「双龍」》は、唐津の土で美濃の黒織部に挑戦した意欲的な作品です。茶碗正面の円相が双龍を現わしているのです。今年の干支に因んだ茶碗で、その歪み具合が絶妙です。この作家ならではの自由な創意が生きています。

川上清美さんの《竜鱗沓茶碗》は、表面に長石釉を厚く掛けて焼成し、鱗状の縮れを出した蛇蝎唐津を進化させたこの作家のオリジナル技法によるものです。茶碗の内外に大胆な貫入が入り、その貫入の一部に赤い土肌の抜けを見せる、男性的な雰囲気のものな茶碗です。

竹花正弘さんの《斑唐津茶鉢》は、煎茶道具で玉露を用いる時に使う後ろ手の急須で、鉄砲口や俱輪球のかたちが可愛らしい、ふつくとした茶鉢です。全体に白濁色の柔らかな斑釉が掛かり、朴訥な味わいを醸し出しています。この作家のやさしさが彷彿とします。

田中佐次郎さんの《斑唐津ぐい呑》は、佐次郎唐津と呼ばれる「青霄」「朱雲」「黄玄」といった独自の技法による造形ではなく、一見、普通の斑唐津のように見えますが、心の自由を得た作家でないと生まれぬ風格を感じます。白い藁灰釉と赤い土との見せ方が絶妙です。

安永頼山さんの《絵唐津徳利》は、抽象的な模様をアクセントとしたシンプルで徳利で、砂岩を用いて成形した焼味の一味違う徳利です。一方《山瀬斑ぐい呑》は、唐津の基本に還った作品です。同じ斑釉でも岸岳系とは違い、山瀬特有の釉流れや青味が魅力的です。

矢野直人さんの《絵刷毛目片口》は、鶏籠山風の絵刷毛目片口です。鉄砲口がピンと立った力の籠った造形と、白い長石釉に鉄絵で軽快な模様が描かれた、爽やかな作品です。一方《皮鯨ぐい呑》は、口をやや端反りにし、その口の内側に黒釉を塗った皮鯨のぐい呑です。

吉野敬子さんの《斑唐津振出》は、全体に白濁色の藁灰釉が掛かり、その中を水色の釉が流れる、美しい景色の振出です。昨年の五月に亡くなった櫛の谷窯の吉野敬子さんの遺作です。私とは親子二代にわたる付き合いでしたが、とても残念でなりません。合掌

森 孝一

(美術評論家・日本陶磁協会常任理事)

吉野敬子氏 追善茶会

柿傳ギャラリーの上にある茶室にて、残念ながらお隠れになってしまった吉野敬子さんの追善茶会を開催致します。

席主は、吉野敬子さんのご主人大原和司氏が務めます。

皆様からのお申し込みをお待ち申し上げております。

日時 2月27日(火)

11:00、13:00 席入の二席

※ 席入 15 分前まで受付・寄付(7 階)に集まりください。

席主 大原和司 (吉野敬子さんのご主人)

場所 新宿 京懷石 柿傳 (東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル)
受付・寄付「安与ホール(7 階)」

↓
薄茶席「残月亭(9 階)」

↓
点心席「古今サロン(6 階)」

点心 お食事の内容は、小向付、旬菜を盛り込んだ縁高、煮物椀、ご飯と香の物です。
もちろん、お食事に合う日本酒もふんだんにご用意しております。

会費 6,000 円(税込)

服装 お楽な格好で、ご自由にどうぞお出掛け下さい。

所要 2 時間程度

申込 参加ご希望の方は、下記のお電話かメール又は
右のQRコードからお申し込み下さいませ。

2/27 茶会
申込ページ



▶ お問い合わせ先

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com

電話は 11 時～ 19 時受付 (ギャラリー休廊日を除きます)

唐津焼 11 人展 一在るか様にー

会期 令和 6 年 2 月 23 日(金)～ 29 日(木)

会期中無休

開廊時間 11:00 ～ 19:00

※ 最終日の 2 月 29 日(木)は 17:00 まで

出品作家 岡本作礼 2月25日(日)～27日(火)

[在廊予定日] 川上清美 2月24日(土)～25日(日)

竹花正弘

田中佐次郎 2月23日(金)～24日(土)

中里太亀

十四代

中里太郎右衛門 2月23日(金)

藤ノ木土平 2月28日(水)～29日(木)

三藤るい 2月27日(火)

安永頼山 2月25日(日)

矢野直人 2月27日(火)

吉野敬子

(五十音順)

会場 柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11

安与ビル地下 2 階

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com



柿傳ギャラリー HP



公式 Instagram



お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式 SNS にて、
最新情報をご確認頂ければ助かります。



川上清美

Kawakami Kiyomi

昭和 23 年 長崎県対馬市に生まれる
昭和 55 年 愛知県立瀬戸窯業訓練校 卒業
その後、唐津、備前にて修業
昭和 61 年 田中 佐次郎氏に師事
昭和 63 年 唐津市半田にて独立
平成 2 年より 各地百貨店、ギャラリーにて個展

竜鱗杓茶碗

W15.4×D12.2×H8.4cm



岡本作礼

Okamoto Sakurei

昭和 33 年 佐賀県唐津市に生まれる
昭和 53 年 中里重利氏に師事
平成 元年 現在地に工房設立
平成 11 年 能登島ガラス工房にてパート・ド・ヴェールを習得
平成 20 年 個展（野村美術館・京都）
他、個展多数
現在、佐賀大学非常勤講師、佐賀県陶芸協会 会員

黒織部唐津円相茶碗 銘「双龍」
W12.0×D11.0×H8.5cm



田中佐次郎

Tanaka Sajiro

昭和 12 年 福岡県に生まれる
 昭和 40 年 縄文・弥生土器を研究、手びねりを始める
 昭和 46 年 肥前唐津古窯址を発掘調査、作陶活動を開始する
 昭和 50 年 唐津に登窯を築窯する
 平成 16 年 韓国に登窯を築窯
 平成 20 年 韓国ソウルロッテ百貨店にて個展
 平成 26 年 スイス・ジュネーブにて個展
 平成 28 年 ニューヨークにて「人間国宝石黒宗磨・凡工田中佐次郎 二人展」
 令和 元年 しぶや黒田陶苑五十周年記念「田中佐次郎 自撰五十」を開催
 令和 5 年 NHK ラジオ番組宗教の時間三十分「陶禅一如」を語る

斑唐津ぐい呑
 W7.7×D7.1×H6.0cm

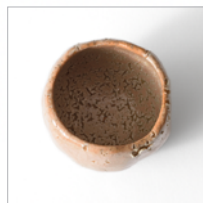


竹花正弘

Takehana Masahiro

昭和 49 年 東京都に生まれる
 平成 12 年 唐津のあや窯で三年間修行
 平成 15 年 厳木町に割竹式登窯を築く
 平成 16 年 初窯焼き
 以降、各地で個展やグループ展を行う

斑唐津茶鉢
 W11.8×D7.8×H7.9cm



十四代 中里太郎右衛門

Nakazato Tarouemon

昭和 32 年 十三代 中里太郎右衛門の長男として生まれる
昭和 59 年 第 16 回日展にて叩き青唐津手付壺「貝緑」初入選
平成 14 年 国際陶芸アカデミー (I・A・C) の会員となる 十四代 中里太郎右衛門を襲名する
平成 17 年 第 52 回日本伝統工芸展にて「唐津井戸茶」入選 以後、平成 28 年まで 8 回入選
平成 18 年 10 月、天皇・皇后両陛下の佐賀県行幸啓に際し、
国史跡に指定された唐人町御茶 窯および工房の御視察賜り、御説明の栄誉を受ける。
「叩き朝鮮唐津壺」佐賀県より両陛下へ献上
平成 19 年 日本工芸会正会員となる
平成 22 年 佐賀県陶芸協会の副会長に就任
平成 23 年 唐津市政功労者表彰を受ける、紺綬褒章受章
令和 2 年 中里太郎右衛門陶房の敷地内に御茶 窯記念館を開館

唐津手びねりぐい呑
W7.0×D7.1×H5.8cm



中里太亀

Nakazato Taki

昭和 40 年 佐賀県唐津市に生まれる
昭和 63 年 父・中里隆のもとでやきものを始める
平成 5 年 柿傳ギャラリーにて、中里隆・奥三十郎、三人展出品
平成 6 年 万葉洞みゆき店にて、父子展出品
平成 7 年 伊勢丹 新宿店にて初個展。以降、各地にて個展を開催
平成 18 年 新しく登り窯を設計、築窯
令和 元年 万葉洞みゆき店にて、隆太窯 三代 中里隆・太亀・健太 作陶展を開催

絵唐津水指
φ18.7×H17.5cm



三藤るい

Mitoh Rui

昭和 53 年 福岡県福岡市に生まれる
平成 18 年 佐賀県立有田窯業大学 ロク口科 卒業
唐津 川上清美氏に師事
平成 21 年 唐津市に築窯、独立
以降、各地百貨店、ギャラリーにて個展を行う

青斑唐津茶碗
φ13.8×H7.2cm



藤ノ木土平

Fujinoki Dohei

昭和 24 年 新潟県に生まれる
昭和 50 年 唐津 大橋裕氏に師事
昭和 53 年 美濃 加藤芳右衛門に師事
昭和 55 年 佐賀県唐津市鎮西町に土平窯を開窯

「弁財天」額
W37.0×D37.0×H4.0cm



矢野直人

Yano Naoto

昭和 51 年 佐賀県唐津市に生まれる
平成 6 年 五年間アメリカ留学
平成 14 年 佐賀県立有田窯業大学校卒業
平成 15 年 佐賀県立有田窯業大学校嘱託講師
平成 16 年 自宅 殿山窯にて作陶始める
平成 20 年 韓国 蔚山にて六ヶ月作陶
平成 27 年 割竹式登窯 築窯

絵刷毛目片口 W12.8×D11.7×H8.7cm
皮鯨ぐい呑 W7.5×D7.2×H5.1cm



安永頼山

Yasunaga Raizan

昭和 45 年 島根県益田市に生まれる
平成 13 年 田中佐次郎氏に師事
平成 15 年 藤ノ木土平氏に師事
平成 20 年 現在地に登り窯を築窯
平成 25 年 田中佐次郎氏命名の「頼山」に改名
平成 28 年 京都野村美術館にて茶陶展開催
第 63 回 日本伝統工芸展 入選
平成 29 年 第 34 回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」入選
第 7 回 菊池ビエンナーレ 入選
令和 元年 第 25 回 日本陶芸展 入選
現在形の陶芸 秋大賞展 V 佳作
第 8 回 菊池ビエンナーレ 入選
令和 3 年 「近代工芸と茶の湯のうつわ」展 出品 (国立工芸館・金沢)

絵唐津徳利 φ7.7×H12.6cm
山瀬斑ぐい呑 φ5.7×4.7cm

価格表

	作家名	作品名	本体価格／円 (税込価格／円)	作品サイズ (cm)
P6	岡本作礼	黒織部唐津田相茶碗 銘「双龍」 [桐箱付・後日]	200,000 (220,000)	W120×D110×H8.5
P7	川上清美	竜鱗沓茶碗 [桐箱付・後日]	300,000 (330,000)	W154×D122×H8.4
P8	竹花正弘	斑唐津茶鉢 [桐箱付・後日]	40,000 (44,000)	W118×D78×H7.9
P9	田中佐次郎	斑唐津ぐい呑 [桐箱付・後日]	109,091 (120,000)	W7.7×D7.1×H6.0
P10	中里太亀	絵唐津水指 [桐箱付・後日]	180,000 (198,000)	φ18.7×H17.5
P11	十四代 中里太郎右衛門	唐津手びねりぐい呑 [桐箱付・後日]	110,000 (121,000)	W7.0×D7.1×H5.8
P12	藤ノ木土平	「弁財天」 額 [紙箱付]	180,000 (198,000)	W37.0×D37.0×H4.0
P13	三藤るい	青斑唐津茶碗 [桐箱付・後日]	110,000 (121,000)	φ13.8×H7.2
P14	安永頼山	絵唐津徳利 山瀬斑ぐい呑 [共に 桐箱付・後日]	25,000 (27,500) 17,000 (18,700)	φ7.7×H12.6 cm φ5.7×4.7
P15	矢野直人	絵刷毛目片口 皮鯨ぐい呑 [共に 桐箱付・後日]	25,000 (27,500) 14,000 (15,400)	W12.8×D11.7×H8.7 W7.5×D7.2×H5.1
P16	吉野敬子	斑唐津振出 [桐箱付]	28,000 (30,800)	φ5.0×H11.0



吉野敬子
Yoshino Keiko

昭和 47 年 佐賀県伊万里市に生まれる
平成 8 年 父、吉野靖義の櫛ノ谷窯にて修行
平成 11 年 唐白を設置し、父靖義と共に、石を砕いて作る桃山時代の唐津焼（砂岩唐津）の復興に取り組み始める
平成 15 年 有田窯業大学校でろくろの技術を学ぶ
平成 18 年 タイ、ベトナムにて現地の伝統技法を学ぶ
以降、各地で個展、グループ展などで作品を発表
平成 25 年 櫛ノ谷窯窯主となる
令和 元年 個展（柿傳ギャラリー）
令和 5 年 鬼籍に入る



新宿で大人の道草を。

柿伝ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

弊廊のある「安与ビル」が国の登録有形文化財に登録されました。

コラボレーション展 「唐津 三玄窯 中里重利展」

本展覧会の同時開催コラボレーション展として、渋谷の「LAPIN ART GALLERY」さんで、2月23日から「唐津 三玄窯 中里重利展」が開催されます。

「LAPIN ART GALLERY」さんは、再開発で一層活況を呈する渋谷の「セルリアンタワー東急ホテル」にある素敵なギャラリーです。店主の坂本大さんは、素敵な笑顔を絶やさず、心豊かな御仁で、私も大好きなギャラリストです。

今回のコラボレーション展では、茶人や数寄者から愛された名工中里重利さんの遺作が並びます。素敵な茶陶などが展覧される事は間違いないでしょう。

是非、渋谷と新宿をご一緒にお楽しみ頂ければ幸いです。

柿傳ギャラリー店主 安田尚史

唐津 三玄窯 中里重利展

会期：令和6年2月23日(金)～28日(水)
10:00～19:00

会場：LAPIN ART
GALLERY

東京都渋谷区桜丘町26-1
セルリアンタワー東急ホテル1F
TEL 03-6427-8512
e-mail info@lapinartgallery.com



中里重利

Nakazato Shigetoshi

昭和5年 佐賀県唐津市生まれ(人間国宝、中里無庵の三男)
昭和27年 日展初入選
昭和31年 第5回 現代日本陶芸展 松坂屋賞
昭和40年 第8回 日展にて「三玄壺」特選北斗賞
昭和49年 東京・京都高島屋に於て個展(以後、各地で開催)
昭和51年 日展審査員となる 窯名を三玄窯とする
昭和52年 日展会員となる
昭和60年 佐賀県芸術文化功労賞
昭和61年 日展評議員となる
平成14年 地域文化功労者表彰(文部科学大臣表彰)
平成27年 鬼籍に入る

160-
0022

東京都新宿区新宿3-37-11

柿ダヤナリ

KAKI-DEN GALLERY